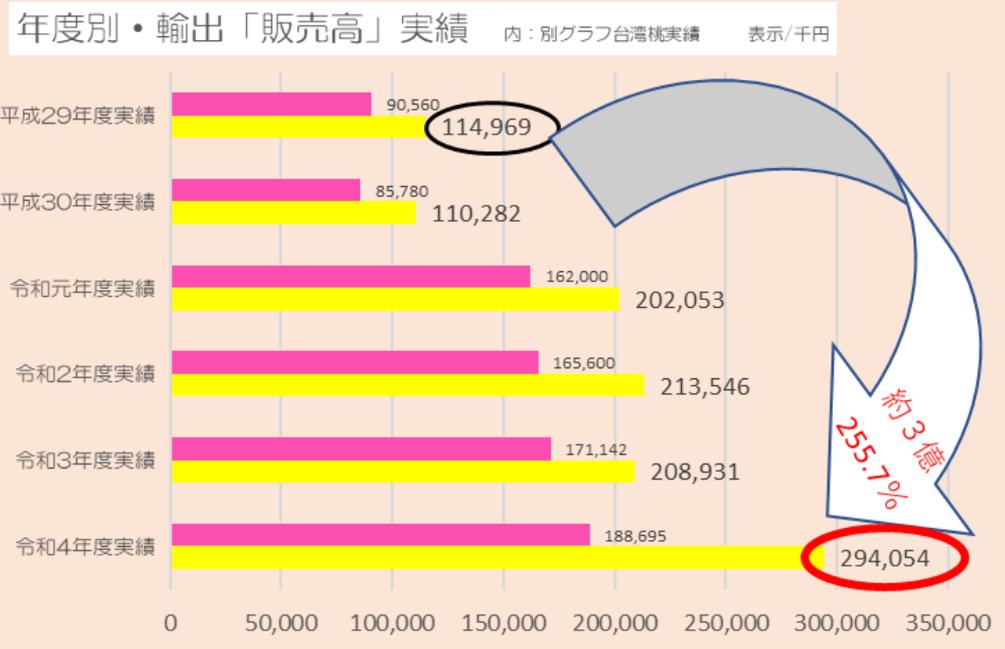


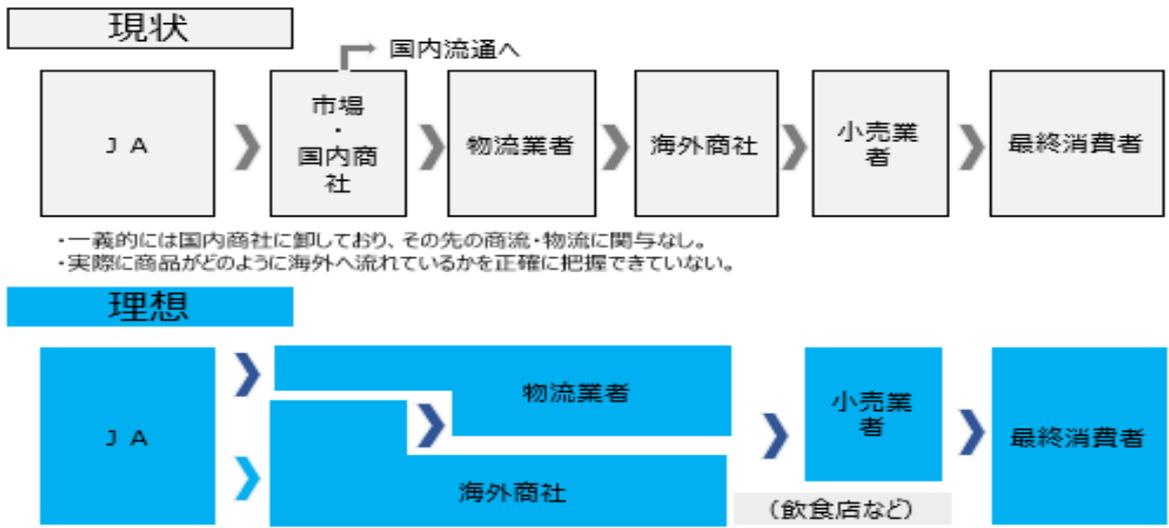


令和4年度12月末:294,054千円

独自輸出により所得増大を目指す



紀の里の戦略



- ・一義的には国内商社に卸しており、その先の商流・物流に関与なし。
- ・実際に商品がどのように海外へ流れているかを正確に把握できていない。

- ・海外商社あるいは物流業者と直接取引を行うことで、流通コストを引き下げつつ、JAの販売価格を確保する。
- ・直接に取引を行うことで、海外販売に関するフィードバックを受けつつ、輸出マーケティングに活かしていく。

日本青果物輸出促進協議会
Japan Fruit and Vegetables Export Promotion Council

日本産の果実は極めて高い品質で
Japanese fruits are extremely high quality.

安全・安心があるために
In order to be safe and secure,

海外での需要が拡大しています。
demand in overseas is expanding.

このマークは安全・安心の日本産も
This mark represents safe and secure

憲じています。
Japanese products.

紀の里農協協同組合
(和歌山県紀の川市)

海外市場を取り込んで農家の所得安定確保

- ・台湾
- ・香港
- ・シンガポール
- ・タイ
- ・マレーシア

取り組み内容

- 卸売市場荷受会社からの要請に応じて桃と柿を中心に市場出荷。事前に商談を行い数量と単価を決め、販売を委託する。市場では仲買を経由して輸出される。
- 桃の出荷は6月-8月。8種類をリレーで出荷。地区別のめそろい会で出荷数量を確保する。桃の後は柿。洗抜きを行い鮮度保持加工を行うので安定出荷が可能。梅は直売扱いで香港に輸出している。
- 卸売市場を経由する輸出であるが商談会には参加し、行政と一緒に紀の川のPRを行っている。海外の売場フォロー等も行っている。西鉄運輸を利用する直接輸出も台湾の一部に実施。

輸出実績の推移

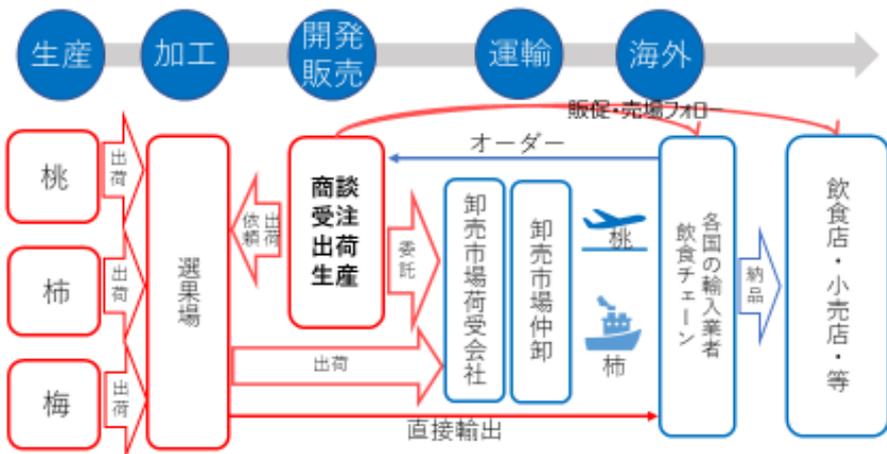
輸出国別金額の推移 (千円)



品目別輸出金額の推移 (千円)



輸出の仕組みチャート



輸出に取り組んだ背景

- 大阪の卸売市場荷受会社から、2006年に台湾に桃を送りたいとのオファーが届いた。2005年に複数の選果場を合併し、大型選果設備を導入しており、選果能力に十分な余裕があったので受けることとなった。
- アジアで開催される商談会には荷受会社及び行政の担当者と一緒に参加し、取引先と輸出する品目を増やしてきた。既存及び新規取引の海外バイヤー等を日本に招いて、生産現場の視察やテスト販売などの販促を行い輸出を拡大している。
- 西鉄運輸からの提案があり台湾の一部への直接輸出も始まった。

課題と解決のポイント

厳しい検疫対応

輸出先はアジア諸国であるが、植物検疫は品目別に国によって異なっている。それぞれの基準に合わせることで輸出を伸ばすためには不可欠となっている。

富裕層の信頼獲得

東南アジア向けには高い単価を維持するために高所得者を販売ターゲットとすることが必要である。特に桃は鮮度保持によって食味を維持することが求められる。

輸出数量の確保

輸出の中心である桃は6月-8月に収穫が集中しており、国内での販売が中心となる。荷受会社とは事前に商談を行うが、必要数量を生産者から確保することが必須。

植物検疫障壁があるときは生産者に協力を求め、全園地または一部の園地を登録して、栽培を行っている。台湾向け桃は特に厳しく、選果ラインから輸出分を取り出して、一玉ずつエアチェックを行っている。

大型選果設備で高速の選果作業を行っているが、HACCPの考え方を導入し安全衛生を強化している。2004年J A 紀の里版GAPマニュアルを作成取り組み開始。グローバルGAP取得に向け研修会を開催。

桃は8種類を順次輸出する。地区ごとに生産者は「めそろい会」を開催し、輸出に必要な数量を品目別に確保する。輸出により国内流通量を調節することが可能となり、桃の単価を維持することで農業所得も確保。

品名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
桃	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
柿	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
梅	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

▲上段は桃、下段は柿の栽培スケジュール

▲物流センターと大型選果設備

▲J A 紀の里「安全・安心」農産物推進運動年間サイクルのイメージ図

今後の展望

- アジア諸国での桃の評価は高い。台湾では特に高く評価されており、現在の2倍程度の販売を見込んでいる。香港と中国への輸出を更に発展させる。特に中国市場は魅力的であり、直接輸出も検討している。
- 台湾に輸出する桃の品質チェックを効率化するために選果設備の更新を検討している。ライン上でエアチェックができる台湾向け専用の選果レーンを導入する。
- 年間輸出ができるように加工品の開発を行う。酸味が苦手な東南アジアに向けては梅のシロップ漬。柑橘類のジャム・マーマレード・缶詰等の開発も検討している。

選果施設コンセプト

- 高齢者・兼業農家・女性に優しい施設。
- 公平な評価とトレーサビリティへの対応が万全。
- 選果データのGISとの連動による地域農業振興・園地毎生産指導への活用。
- 精算代金の振込期間の大幅な短縮と明朗な会計準拠。
- 食農教育、地域・消費者との交流・研修室等の設置。
- 騒音・ゴミ・排水等環境に優しく食品を扱う施設としての管理。土足禁止・植防対応
- 組合員がいつでも気兼ねなく立ち寄れる施設。小会議室は土足OK
- 機械化による大幅な選果コストの低減と地域の雇用とのバランスがとれた選果機。
- 消費者ニーズ・市場の要望に即応できる選果ライン。
- ITを活用した販売戦略が可能なシステムの導入。

○輸出専用レーンの設立

拠点選果場の周年選果による消費地への供給体制の整備

流通センター



東部流通センター



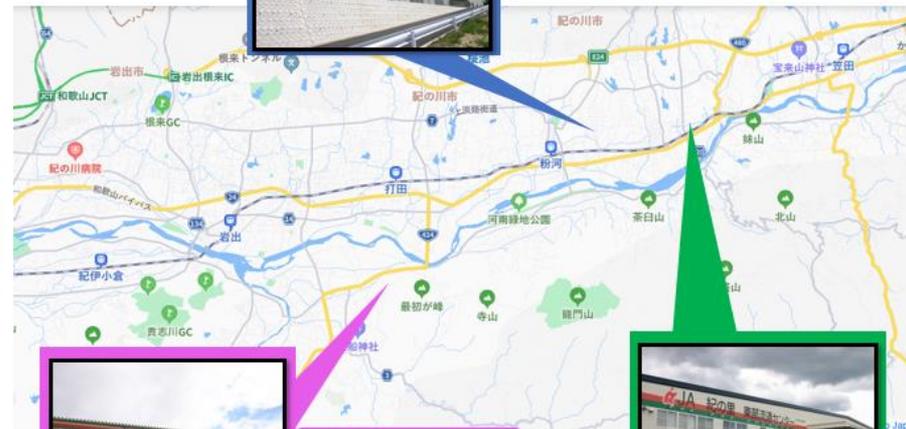
西部流通センター

周年・集約・
統一規格選果
↓コスト削減
有利販売

農産物流通センター



10か所の選果施設を地域荷場として活用し、
選果は3センターによる再編を実施



西部流通センター

東部流通センター

